

**教育センター  
だより 第93号**

令和元年10月4日発行  
佐野市教育センター  
佐野市上羽田町1134番地1  
電話(20)3108  
(20)3048(相談専用)

**『家庭や地域と一体となって豊かな心の育成を』****佐野市教育センター所長 野城 久雄****年寄りの愚痴？**

今年の夏、初任の時に中3の副担任だった学年の同窓会にお招きいただき、35年ぶりに卒業生に再会しました。かろうじて当時の面影が残っているものの、私と同じ50代のおじさん、おばさんになっていました。社会人となって就職して約30年経った現在の活躍ぶりを伺うことができ、とても楽しいひと時となりました。

国内線のCAをしているYさんは、「夏休み中は家族旅行が増えて、ちびっ子たちが機内を走り回って大変なんです。」とこぼしていました。親はどうしているのかと尋ねると、見ているだけで注意してくれないとのこと。年々、マナーの低下を感じると話していました。

そばにいた幼稚園長を務めているIさんは、「以前に比べ、手のかかる子が増えている。親も話を理解できなかったり、平気で約束を破ったり、……。」と嘆いていました。小中学校以外の職場で働く人たちの子供や親に対する見方を聞き、「やはり」と納得してしまいました。

**困った親(子供)は困っている親(子供)**

保護者が学校に対して何かと要求してきて、「困ったな」と感じた経験がある先生方も多いと思います。実際、保護者の要求に対し、心を痛めている教員も少なくありません。しかし、不満の矛先が学校に向いているように見えても、最愛の我が子のためにどうにかしたいと学校に助けを求めているとも捉えられます。おそらく家庭でも対応に苦慮し、身近にいる親が一番困っているのではないのでしょうか。

また、中には虐待を疑われることを恐れ、人前で子供を強く叱れない親もいると聞きます。

昔に比べ、祖父母や隣近所など親以外の大人が子供に関わることが減りました。「しつけ」を一手に任された親自身が、どのように関わったらよいか悩んでいるのかもしれませんが。

子供たちも同様に、よく指導される子供の多くは、何らかのことで困っており、心の不安定さが行動に表れていると言えます。

子供の問題行動の原因を押し付け合っていては、保護者との連携はとれません。学校でできることとできないことを保護者に伝え、寄り添う気持ちで誠意をもって対応することを心掛けたいものです。

**心の教育の充実を**

少子化、核家族化、情報化などの影響で、子供たちを取り巻く環境は、大きく変わってきました。幼い頃からゲーム機やスマホを相手に一人で遊び、兄弟も少なく、外で遊びまわることも減りました。また、物質的に豊かで快適に生活できるようになった反面、面倒なことや苦しいこと、我慢することの体験が少なくなりました。結果、対人関係が希薄になり、折れやすい子供が増えているように思えてなりません。

どの学校の教育目標も「知育」「徳育」「体育」からなり、3つのバランスのとれた教育実践が求められますが、学力向上のみに焦点があてられる傾向があります。教育の目的は、「人格の完成を目指し、心身ともに健康な国民の育成」です。子供たちがよりよく生きるための基盤となる道徳性の涵養は学校の使命です。生命尊重、人権尊重を全ての教育活動の基盤として、家庭や地域社会を巻き込んで、子供たちの豊かな人間性や社会性を育てていきましょう。